

# あだたら

第411号  
発行所  
郡山市善久田町  
あだたら山の部  
編集



8時17分、奥岳、深い霧の中、カメラも入れて11名参加

奥岳八時集合、予定数より一人減の十一名の山行となった。深い霧の中、薄暗いが、スキー場は賑やかだ。ここでスキー場の管理者A支配人に電話、昨日も

電話で断り入れていたが、当日、様子を確認の上再びの電話でリフト利用の人数求められていた。参加者の内、大玉組の三人はスキー支度、道標用の篠竹を持参

●編集部連絡先  
二本松市郭内1-515  
0243(22)4246  
Fax可 渡辺 正



大玉組、篠竹持参、スキー支度

して、スキーリフトを利用して、五葉松平に向かう。この旨をA支配人に電話。あとの八名は歩きでくるが、小屋に向かう。スノーシュー持参していたが、出発時は壺足だ。道の中央部の歩き固められている場所だと潜らないし滑る事も少ないので、スノーシューより楽なのだ。A夫婦は登山口から山スキーだ。

最初の急な坂過ぎて、鳥川沿いの断崖の上に出る。江戸時代からの登山道に近づき、首無し地蔵の所を通る、無事をお願いする。悪戯された首はそのままだ。五葉松平への分岐を過ぎて、鳥川橋に出る。ここでスノーシューを着ける。橋を渡ると、勢至平への急な登り、江戸時代には「七丁道」直登出来る。無雪期だと火山灰の赤土で滑り易いルートだが直登出来るのだ。近道三個所登って、四個所目、最後には「八之字」で合流するが、馬車道は婆ヶ前」の下に向かい、近道は「十文字」、「滝見台」から「八之字」への直登となる。今回は「近道」、まずは「十文字」までの登り、近道と湯桶道との交差点が「十文字」と呼ばれている。「滝見台」からは、鳥川と安達太良山頂が見える。「滝」も昔は見えたという、景観戻そう。「八之字」への登り、無雪期だと扶れて



9時53分、八之字の頭、青空出た



薬師尾根、大玉組

泥澤で滑り易くて辛いが積雪期は直登だ。「八之字」は二本松藩時代の地誌「相生集」に依ると、このあたり現れる雪型だ。九時五十三分、「八之字」到着、晴れて青空となった。雪は少ない、例年だと立木は全て雪の下なのだが、積雪は一〜二メートル程度、少ない。更に登って「邪魔石」、湯桶引くときに邪魔になった石があったという。ここから勢至平になる。いつもなら、小屋出たところ、写真撮影する。今回は忘れてしまった。「車両子回地」まで下った所で撮影した、六名だ。勢至平



10時8分、口口さん夫婦

このあたりで事務局(私)の足が止まり気味になった。写真撮っているせいもあるのだが、遅れがちになってしまった。結局小屋迄追いつけなかった。みんなは十時五十分小屋到着、事務局は十一時二十分、三十分離されてしまった。一人ではなかった、スキー支度のA夫婦が付いていてくれた。一人だと落ちて仕舞ったとき、戻れない(いろいろの意味で)。有り難かった。小屋で昼食。二人は峰ノ辻まで登る、状態良かったら山頂まで。後のメンバーは来た道を戻る。いつでもなら、小屋出たところ、写真撮影する。今回は忘れてしまった。「車両子回地」まで下った所で撮影した、六名だ。勢至平

奥岳に下山したところでパトロールに顔出した、山岳パトロールの恒例だ、コーラス状況説明した、パトロールからは、熊注意の看板、「風で倒れてしまうので、場所移した」、と聞いた。大玉組に電話して、現在場所訪ねた。一番下のリフトの上だという。直ぐ行くから待っていてくれと言う、歩きじゃない、スキーならばそれが出来る。十分も掛からずに下山してきた。十一名全員無事下山で撮影、冬山パトロールも無事終了。



12時57分、勢至分岐で合流

ゲレンデは同じウェア同じゼッケン着けた子供達で一杯。パトロールで聞いたのだが茨城県の小学校三校来ていると言う事だった。バスも四〜五台いた。



一月二日(月)

# 個人山行・日山

報告・□□□□



を家に電話を入れる。

今年の初日の出は、雪がちらつく朝だったが、城山の駐車場は満車、路上駐車も多い。私達は細野で日の出を待つ。東の空が赤くなり、太陽が顔を出し、私達を照らす。スマホやカメラのシャッターをみんなが押す。私は気が付くと両手を合わせていた。わずかな時間で雲の中へ、幸福の一時だった。

午前中小雨が降ったり止んだり、安達太良山行諦め、午後塩沢神社など廻りのウォーキング、二時間ほど歩く。

一月二日、昨日夜の雪で道路が白く、天気は晴れている。風もない様なので安達太良を行ける所までと思い、準備して家を出る。途中安達太良を見ると奥岳あたりまで雪雲吹き出している様子だ。安達太良を諦め日山へ変更する。変更した事

を家に電話を入れる。登山口の駐車場に車は無い。上の駐車場まで車を上げるが、私の車だけ。私だけの日山になりそう。十一時半入山、放牧所を過ぎ山道に入ると全面雪道、途中から雪も多くなり、十時からはあるだろう。高度を上げると雪も多くなる。山頂近くでは二十位はあるだろう。又、綺麗な樹氷が私を待っていてくれた。カメラに収め、山頂へ。午後一時、昨日の足跡と思われる所が見受けられたが、新しい足跡は無い。静かな山頂、太陽が雲から出たり入ったり。天気、手元の温度計で一度、日山神社で休憩、冷たくなった手をカプラーメンの容器で温め昼食を摂る。約三十分程休み、一時半に下山。今日初めての登山者若し二人の男性が登って来た。登山道はまだ氷っ

一月五日(木)

# 個人山行・鹿狼山

報告・□□□□



竹駒稲荷神社へ。松の内という事もあり多くの参拝者、駐車場も空き待ち。参拝も順番で長居を避け、三時駐車場を出る。四号国道は西日がフロ

私の一月山行という鹿狼山、今年も妻と行く。二本松より約八十キロ、二時間で「水源の森登山口」へ。約四十分の樹海コースを登る。強風注意が出ていた。中登る。軽装の登山者が下山して来る、途中三回ほど休み、山頂へ十二時十分着く。風も弱くなり、青麻山や七ツ森、牡鹿半島まで眺望を楽しみ、鹿狼神社に参拝、直下の日溜まりの土手で昼食休憩、沖行く船を眺め約四十分、手元温度が十二度と眠気が来そう。登山口へ一時半頃下山する。帰路は六号国道を北上、

帰った事があったので、今回は地方道を県道二八号を丸森町、県道一〇一号、丸森より山舟生を通り、三九国道へ。保原、渡利と通り帰宅する。五時半だった。今年が初日の出、日山、鹿狼、竹駒と天気にも恵まれ、良い年になるのではないかと思っていた。八日には妻が体調を崩し、入院する事になってしまった。竹駒神社等に参拝しても賽銭が少なかったのか、ご利益が無かった様だ。今年は大変な年になってしまおうのか？、頑張るしかないと思

てはいないので安心して下山出来る。午後二時二十分、無事駐車場へ下山。登り一時間半、下り五十分の今年初めての雪山登山を楽しみ

二月一日(水)、環境省主催

# エコツアーリズム・ガイド研修会

報告・編集部



ガイド研修会

福島駅前のコラボッセ福島で、環境省主催のエコツアーリズム・ガイド研修会が開催された。

午前中はスライド使ったの講座。ところが午後の講座四・リスクマネジメントでは、実習が入った。要救助者役に対して、意識確認

呼吸確認・出欠確認行なわなければならない。要救助者は最初は環境省の役人、次に同じテーブルの参加者。初対面の人だ。当日最初から同グループの同テーブル着席は禁じられていたが、このためもあったかも知れない。そうでなくとも強烈寒波の今年なので厚着、動きまわらない中で体屈めて、色々やねばならない。私は体思うように動かせなかった。汗掻いてしまった。当会からは□□□□さん、□□□□さん、□□□□さんが参加した。

事も手に付かずという日が続き、気晴らしにと思いの所に洗濯物を届け、二本松九時出発、秋山集会所より入山する。桐平登山口まで車道歩き、桐平駐車場に車が二台、会員の車と思われ、車が無い堀切登山口から入山したのである。途中逢えるのとは思い山頂へ。十一時半に着く。途中や山頂で五人の登山者と逢う。一人昼食。事務長へ電話する。電波の届かない所に居るらしい。もしかして安達太良と思った。事務長からの電話で、冬山パトロールだった事に気が付く。歳のせいにはしたくないが、呆けが来たのかな？。堀切登山口へ下山、秋山集会所まで登り約一時間半、下り一時間くらいだった。天気も良く、雲の間から安達太良山も見ることが出来、風も無く登山日和だったのであったと思う。

一月十五日(日)

# 個人山行・女神山

報告・□□□□



一月の会山行、十五日が女神山、二十九日はパトロールだと昨月十二月に決めていた。だが私の予定違いであった。一日中一人で家にいると、色々な事を考えて、仕

## 編集後記

四一一号

◆今シーズンの冬、例年と雪の降り方、冷え方が違う。雪の回数多いがそれ程積もらない。冷え方強いので、凍り付いた道の積雪いつまでも消えない。地球温暖化の影響だと言われる。

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いので、FAXも受信できます。